

研修体験記



米国研修体験記

タイトル

夢への一歩

(下関中等教育)中学校 氏名(太田知穂)

中学3年生が始まった春、まさか私が夏にこんな大きな挑戦をあるとはまったく思ってもいませんでした。私がこの研修を知ったのは、先生から、アメリカ研修の募集の紙を見せられ、「これ挑戦してみない？」と声をかけていたことが、この研修に応募するきっかけでした。最初は、私はアメリカへ行けるのだろうか、もし受かっても、英語でちゃんと会話ができるのか心配でした。私はこんな不安をかかえたまま、米国派遣研修団員として、アメリカに行くことが決まりました。研修会では、海外の方はどんなもの、どんなことをしたら喜んでくれるのか、また、下関に行きたい!と思ってもらえるのか、他の7人の団員たちと、たくさん考えました。そして、待ちに待ったアメリカへ行く日がやってきました。飛行機に乗る前は不安はまったくなく、反対にワクワクして、すぐにホストファミリーに会いたい!と思っていました。ですが、いざ飛行機に乗ってみると、もちろん日本語ではなく、英語で案内され、回りを見ても、もちろん外国人だらけ...団員の席はバラバラで、急に不安が襲ってきました。ですが、特に何もなく以外と楽しく機内では過ごせました。そして、とうとう待ちに待ったアメリカ、サンフランシスコ空港へ到着!約13時間、こんなに長いフライトを経験したのは初めてです。そして、私が不安に思っていた入国審査もなんとかがりクリアして、いざアメリカへ入国!空港からバスで約1時間、サンフランシスコ市内へ向かいました。まず、最初に向かったのは日本領事館です。ここでは、カリフォルニア州について詳しく教えていただきました。そして、次は昼食を食べに近くにあるピザ39へ行きました。大きなサラダ、大きなクラムチャウダーを食べました。全然食べきれませんでした。昼食を食べた後、ホストファミリーの住む、ピッツバーグ市内へ。約2時間バスに揺られピッツバーグ市役所に着きました。ホストファミリーはすでに迎えに来てくれていて、お父さん、9歳の女の子マティソンそして、5歳の男の子ジェイクが笑顔

で迎えてくれて、とてもうれしかったです。家に着くと、まず家の大きさにびっくり！日本の家の何倍もあり、カレッジ・トランポリン・プール、大きな庭があり、日本とアメリカの違いを感じました。この日は、日本のお土産を渡したり、ホストファミリーと少し話をして、長い長い日は終わりました。2日目は、朝からスターバックスへ連れて行ってくださいました。店員さんに「日本から来たんだよ」と言うと、「ようこそ！私は日本が大女子なの」と言われ仲良くなりました。市役所で下関について発表し、警察署、高校、フグの像、本屋、中学校、シアターに行きました。2日目はたくさんの初めての事が体験できた日でした。3日目も朝からスターバックスへ行きました。この日はカリフォルニア州都サクラメントへ、スクールバスに乗って行きました。州議会、オールドタウンに行きました。初めてスクールバスに乗れて、うれしかったです。家へ帰った後、モールに行って、チョコと服をお土産に買ってもらいました。4日目はホストファミリー！朝からハイキングへ行きました。空が青く高くとてもきれいでした。その後、2軒のスキー場へ行き、お土産をたくさん買いました。お昼には日本食を作り、おにぎりとかップ麺を食べました。とても喜んでくれてうれしかったです。5日目は、ゴールデンゲートブリッジへ。この日は霧がかかっている、全体を見るのができず残念でした。橋を歩いたり、近くのビーチへ行ったり楽しかったです。家へ帰り、いとこの誕生日パーティーへ行き、その後プールパーティーへ。ゆかたを披露したり、ビンゴ大会をしたり、とても充実した1日でした。そして、家に帰ると、なんとホストファミリーがプレゼントを用意してくれました。とてもうれしかったです。そして、6日目、最終日。とうとうホストファミリーとお別れ...本当はもっと一緒にいたかったです。実際にアメリカへ行ってみて、日本との違いをたくさん肌で感じる事ができました。すばらしいチャンスに巡り会え、たくさんの方々の支え、応援のおかげで、とても貴重な経験をさせていただきました。自分の夢に生かせるようにチャレンジする気持ちを忘れずに、努力していこうと思います。米国研修は、一生の思い出です。

(下関市安国) 中学校 氏名(萱島 杏里)

私は不思議であった。今まで疑問を持っていた。なぜ、言葉も文化も異なる人間同士が、ここまで社会を築きあげてくれたのか。

日本の外へ出るのも、ましてや空港を訪れることさえ初めてだった。だが、その空港内の様子を見て、私は素直に驚いた。当然ながら、そこには国籍問わず多くの人がいた。その光景は、人間が国を越えて社会を生き延びる証拠であった。本当に、今から私達は英語の海へダイブすることになるのだと、行き交う人々の言葉を耳にしながら感じたのを覚えている。

私自身、英語は得意ではない。加えて極度のあがり症だ。故に、自身の英語が十分に相手に伝わるものなのか、心配だった。仁川空港ではあまり支障はなかったのだが、今思えばそれは同じアジア同士で、心のどこかに親しみを感じてリラックスしていたからだろう。実際、アメリカへと着いて、そこでは杞憂にはならなかった。

相手を目の前にして言葉が出てこない。文法がはじけとんだ。何とか言葉をしぼり出しても、発音が適切でないのか、伝わりづらい。日本語であれば、次から次へとやってくる思考をそのまま伝えられるが、英語では、そもそも次へつなげる返答が思い浮かばない。それは、英語から日本語へ変換する考え方をしめてきたがためだろう。

聴き取ることも、現地では驚くとはばかりで、速い。まるで音が波のようであった。どれだけ、学校で習う英語が易しいものなのか、英語科の先生がゆくりとおぼろげに授業をしてきたことに気がついた。さすに、よく聴いていけば、教科書通りでない文法、とてもよく消えていく音。痛感した。生きた英語とは、まさにこういうものなのだ。しかしそれは、何ら不思議なことではない。なぜなら、日本語も例外外ではないのだから。言葉は似たようなものだ。

上記の出来事によって如何に自分が無知で経験不足であるのかが分かった。価値があるのは機械的に身につけた知識ではなく、

実際に使うからだ。それは、言葉に限定された話ではないが、一番、気付きやすいものだといえる。

そのふかいなさにいくさ打つためされようとも、忘れてはいないことがあった。相手に伝えようとする気持ちで「大事な」ということだ。言葉が上手くあつかえなくとも、ジェスチャーや表情などをを用いて、意志表示をするのが「どれほど効果的なのかを感じることは」多かった。相手に伝わった時はもちろん嬉しかった。加えて、相手の言葉を自分が理解し、会話のチャイポールが「成立した」時は、言諦めなくてよかったと心から感じられた。

ただ、自分でも驚いたのが、相手と共通の話題で盛り上がった時は、次から次へと言葉が「思い浮かぶ」ことだ。逆に、話し足りないと思うくらいだった。あの感覚は忘れていない。これはどうということか。恐らくあの時は気分が高揚していたのだ。気持ち一つで「ユニーク」この流れを良い方へ転化していきなると、またか英語での会話から気付くことなな子とは思わなかった。何が言いたいのかと言えは、何事も気持ちの持てるようだ。

私が得たものは、他者から見ればごく一般的で、特別なものではないのだろう。だが、今回の研修がなければ、きっと一生気付くことにいたのかもしれない。アメリカの人々と関わったあの日は、的確に異人的な感覚を一時的に打ち消してくれた。素晴らしい日々だった。

国も文化も越えて人々が「生きていく社会を、なぜ実現できたのか。政治もあるが、それよりも深い意味がそこにあつたから」と思う。心だ。他者を尊重し、平和を築きあげようとするその心か、美しい千差万別に橋をかけている。群像描画のように生きる世界に、また康寧を取り戻すためには、心を持つことが必要だ。見えるはずのものに気付いていないことは、危険だ。

今回の研修で、本当に多くの人々に身かけられた。数えきれない程の人々のつながりと協力において実現したのだと思う。関わってくれた皆様へ心から感謝の言葉を申し上げたい。ありがとうございました。

米国研修体験記

タイトル

新しい私へと変わる。

(下関市立月形山)中学校 氏名(河野 莉采)

私は、今回の研修を通して、これからの成長につなげていきたいと思ったことが四つあります。
一つ目は、時間を守る、ということですが。時間を守ることには世の中では、あたりまえの中にもあたりまえだ"と思います。しかし私は時間を守ることが苦手です。十日前には行こう、と思っても、結局ギリギリに到着したりしてしまいます。母にはよく、「人を待たせないで、自分が待ちなさい」と身が痛くなるくらい言われまわす。初めてアメリカに行くことになって、今まで以上に時間を守ることを忘れてはいけない、と頭の中でず"と唱えていました。時間を守らないと、飛行機やバスなどに乗れなかったかもしれないし、信用もされなくなってしまう。今回研修に参加して、時間を守ることの大切さを改めて理解できたので、これからは人を待たせず、自分が待つようにしたいと思います。
二つ目は、笑顔は世界共通ということですが。たとえば、その国の言葉が話せなくても、笑顔で笑っていれば、自然と人と人はつながっていくんだな、と今回知ることができました。笑顔でいると、印象もよく、とても話しかけやすいです。私は、アメリカに行く前は、笑顔の少ない人でした。楽しいことがあったら笑う、といった無表情な人でした。しかし、アメリカに実際行って、"笑顔は幸せを見つけるためにある、"ということがわかりました。笑うことによって、人は近づきやすくなって話しかけてもらえるし、自分だけでなく、相手の人とも自然と笑顔になると思います。アメリカの人たちは、いつもテンションが高く、ハリハリでした。日本とは、全く違って、無表情のままの私をとても元気な楽しい気持ちにしてくれました。今までの笑顔の少ない私は、ネガティブな考えで、暗い気持ちでいることが多くありました。しかし、アメリカに行って、笑うことってこんなに楽しいんだな"と思うことができました。私を笑えてくれたアメリカの人たちに本当に感謝したいです。
三つ目は、英語を完璧に話す必要はないということですが。私は

公かいころから英語を習っていました。本場で生の英語にふれるのは、この石井修が初めてでした。いざ英語を使って話すとなると、とても難しかったです。覚えていきます。自分の頭の中で、単語語を採集集めて、そこから英文を作ることは、もちろん、その他にも緊張で、ずつとドキドキしていました。しかし、現地の人たちは、そんなカタコトな和が「話す英語を一生懸命、笑顔で聞いてくれました。時には、不思議な顔をされたこともありましたが、あたかもいってと応援してくれているようで、落ちついて話すことができました。和は、アメリカ人の優しい笑顔に且かけられてばかりでした。だから、「英語を完璧に話すよりも英語を楽しむ」ということの方が大切だ」と思いました。和は今まで、英語自体を楽しむていなかったかもしれませぬ。ワ-ワなど赤い字ばかりで、「和ってワ-ワだ」な、英語勉強してるのに…」と、大好きだった英語も、いつのまにかキライになっている時期がありました。好きや嫌いの問題ではなく、楽しめているか、楽しめていないかの問題だったということが、今回の石井修で分かりました。話せなくても、自分がどれたけノリノリで楽しめていけるかが大切ということが矢口れて良かったです。

四つ目は、「ありがとう」「ごめんね」を素直に伝えるということ。和が、アメリカで一番よく使った英語は「Thank you.」でした。Thank you. から、会話が始まることもあったくらいです。それくらいアメリカでは、「ありがとう」と感謝を伝えることがタカつたです。実際、アメリカ人同士の会話でも、Thank you. という言葉をたくさん使っていました。日本で、「ありがとう、ありがとう」と感謝を常にしている人は、あまり見たことがありません。アメリカは、よく使った「な」と新たな発見をすることができました。また、「ごめんなさい」と素直に伝えることも大事、ということが矢口れて良かったです。

以上四つの、時間を守ること、笑顔は人を幸せにすること、英語は楽しむこと、「ありがとう」「ごめんね」を素直に伝えることをこれからの成長につなげていきたいです。

また、このような、幸せな貴重な体験をさせてくれた、たくさんの方に感謝したいです。本当にありがとうございました。

米国研修体験記

タイトル

米国派遣研修を終えて

(梅光学院) 中学校 氏名 (谷口 大翔)

今回のピッツバーグ研修は、私に沢山の驚きと発見をくれました。
私はこの研修の間ずっと驚きの連続でした。サンフランシスコやピッツバーグは今まで見たことのない、日本とは全く違う景色が広がっていました。
私は、サンフランシスコ市内やピッツバーグ、サクラメントといった様々な場所に行きました。アメリカは、何処に行っても日本では見る事の出来ない建物が多く、とても綺麗な景観で、ゴミも全然落ちて無く驚きました。
ゴミが落ちていたら拾っている人もいて、日本とあまり変わら無いと気づきました。私が一番驚いたのは、空がとても青かったという事です。
日本と見ているものは一緒なのに、こんなにも違うんだなぁと思うくらい爽やかでした。今回、一番楽しかったのはホームステイです。
ピッツバーグについてサンフランシスコ市内へ行った後、直ぐにホストファミリーの人に会いました。人生で初めてのホームステイと言う事もあり、意思疎通が上手くできるのか、生活は合うのか、きちんと日本の事について伝えられるのかと、本当に不安で一杯でした。しかし、ホストファミリーの家に着いて過ごすうちに、そんな不安は直ぐに無くなりました。
ホストファミリーは、みんな優しくしてくれて、いつも私の事を気遣ってくれました。お兄ちゃんと一緒にアニメを見たり、ゲームをしたりしました。英語が上手く話せなくても、とても楽しかったです。
アメリカでは、日本のアニメやゲームも人気で驚きました。ホストファミリーには、博物館やゴールデンゲートブリッジなどに連れて行って貰い、毎日、皆んなで出かけ、車の中でも歌ったり、何処に行っても笑いが絶えず、とても楽しい雰囲気でした。
今回の、ホームステイで一番感じたのは「自分の意志表現」の大切さを感じました。家族の一員として滞在していたので、好きなものは好き、嫌いなものは嫌い、と言うはっきりとした意志表現をしなければ、何も伝わら無いという事を感じました。これは自分自身の生活面にも取り入れていかなければいけない大事な習慣だと思います。私は普段、

自分の意見があっても、他の人の意見に合わせようとする癖があります。
伝えようとはせず、勝手に相手が分かってくれるだろうと考えてしまいます。少しずつでもこの癖を直して、しっかり相手に伝わる意志表現が出来る人になれば良いなと思います。また、このホームステイで言葉は上手く通じなくても、身振りや手振りで伝わるという事に驚きました。
国籍や環境や話す言葉が違って、お互いに伝える気持ちや、分かり合おうとする気持ちが大事だと言う事をととても実感しました。
私は以前からアメリカの人の食生活にとっても興味がありました。アメリカの人が普段どんな食べ物を食べて、どういう味が好みなのか日本と比べてどう違うのか見てみたかったからです。私が今回アメリカに行ってホストファミリーがメキシコ系の人だった為、タコスをよく食べました。食事をしていると、アメリカの食事のバランスが余り良く無いなと感じました。ハンバーガーやピザ、タコスなどを食べましたが、多くの食事に野菜が不足しているように感じました。日本のように、一汁三菜という文化は全然ないなと思いました。味に関しても、ケチャップやソースなどのシンブルな味付けが多く、日本のような出汁や旨味の文化とは全く違っていました。私は、だし巻き卵とおにぎりをホストファミリーに作りました。
カツオ出汁を使った、だし巻き卵は私には美味しく出来た様に感じましたが、出汁を食べ慣れていないホストファミリーには、余り口に合わなかった様です。しかし日本人にとっては、アメリカの味は食べ慣れている味だなと思いました。何故なら、日本でもハンバーガーやピザなどのファストフード店が多くあり、人気だからです。日本にはファストフードを始めとした、様々アメリカの食文化が根付いているなと思いました。
最後に、この研修を通して自分の視野が大きく広がったなと感じました。アメリカの人の生活を肌で感じて、日本では接する事の無い習慣も沢山発見できました。自分の常識と違うことでも拒絶せず、その国の文化を受け入れられる人になりたいと思います。そんな人達が増えれば、友達や家族でも違う文化の理解は、楽しいものへと変わるのかなと思いました。
今回の研修を通して得たものを、これからの、自分自身の将来に活かす事が出来る様にしたいと思います。

米国研修体験記

タイトル

ピッツァ/バーグでの思い出

(下関中等教育)中学校 氏名(福島 美咲夫軍)

私は、この研修の7日間でたくさん思い出をホストファミリーや地元の中・高生の子達と作る事ができました。

まずは、一番お世話になったホストファミリーとの思い出をいくつか紹介します。1つ目は、日本のお土産の事です。私は、ホストファミリーにたくさん日本の物を渡しました。ママには、壱島のピアスでバラには、キティーちゃんのぬいぐるみと浴衣で1P1Pには、お寿司の絵が書いてある湯のみなどを1人1人に渡しました。ママは、すぐにつけてくれて「きれい」といってくれて、次の日のパーティーにつけてみんなに自慢していました。バラは浴衣を渡したら今着たいといったので着付けをしてあげました。とても喜んでくれてみんなに「どう？」と聞いて回っていたのがかわいかったです。ほかには、駄菓子を持っていきました。夕食を食べた後だったけれど、たくさんのお菓子を食べてくれました。人気だったのは、ピーピーラムネと木毎干しシートでした。逆に、この味は苦手だと言っていたのが、いかの駄菓子でした。たくさんのおしゃべりがあったおもしろかったです。

3日目の夜には、サンフランシスコにバイブリックとゴールデンゲートブリックを見にママとバラとおばあちゃんで行きました。バイブリックはライトアップされていてとてもきれいででした。ゴールデンゲートブリックは霧がかかっているきれいに見る事ができませんでした。ゴールデンゲートブリックは道路の横に歩行者専用の道路があって驚きました。5日のお昼に、アメリカで有名なというメキシコ料理のお店に行きました。ここでは4種類のタコスを食べました。一番おいしかったのはビーフ味です。タコスの横には、カップに入った緑色のソースがありママに、「このソースは何？」と聞いた。『フォークに付けて食べてみて！』と言われ食べてみると、とても

辛いリリースで私は顔が赤くなり、ママにとても笑われました。日本にもメキシコ料理が有名になればと思いました。

次にピッツバーグの中・高生との思い出を紹介します。高校生は体格が大人みたいで日本の高校生と違うなと感じました。また、高校生の方が積極的に話しかけてくれてとてもリフレックスして楽しく話すことができました。ラグビー場では、マーキング練習をしていて日本ではない光景でした。中学生の子も積極的にあいさつや握手をしてくれてうれしかったです。私は、一人の女の子に鶴を教えました。最初は難しそうにやっていたけどだんだん笑顔になってくれて完成した時には満面の笑みで私を見てくれてとてもうれしかったです。ほかの中学生の子は、サクラメントと一緒に回っている時にやさしく教えてくれました。途中には、あめちゃんをござそうしてくれてうれしかったです。最後には、一緒に回った友達とインスタを交換することができて日本に帰ってからたまにメールしています。

私は、この研修でたくさんの思い出とたくさんのやさしいピッツバーグの方と交流ができました。最初は、少しだけ緊張していた所もあったけど、一番最初に会ったホストファミリーが温かく私たちを迎えてくれて緊張などがなくなりました。ホストファミリーには、とてもお世話になったので感謝しています。また、この研修で調べたかったアメリカで流行っている物も、見たり、聞いたりして学ぶことができました。調べた結果、日本と同じでスライムや厚底のシューズが流行っている事がわかりました。ほかにも、アメリカならではのファッションや小物があり、日本とは違うなと感じました。

私は、この研修で出会った、ホストファミリー、学んだことを今後の将来の夢に継げ、そして生かしていきたいと思っています。また、学んだことを友達や家族に伝えたいと思います。

米国研修体験記

タイトル 私にとっての米国派遣研修

(長成)中学校 氏名(藤川 和里)

<p>私は、初めて海外に行きました。最初はとても不安だったけど、行ってみるとすごく楽しかったです。</p>
<p>私は、今回の研修では特に、日本の文化を伝えること、自分から積極的にコミュニケーションをとり、1つでも多くのことを吸収することを目標としていました。</p>
<p>アメリカで私が伝えた日本の文化は、折り紙、箸、浴衣、空手、書道です。私は、日本のお土産として箸を持っていきました。日本食としてそうめんを作ったときにみんなで箸を使って食べました。初めは難しそうだったけど頑張っていました。折り紙で鶴を折ったり、英語で説明されている折り紙の本をあげました。また、白いせんすに漢字で名前を書いてプレゼントもしました。プールパーティでは、私が小さい頃から習っていて、2020年の東京オリンピックで正式種目としても注目されている空手を演武しました。みんな動画を撮っていたので、少し緊張したけど、「カッコイイ」と言ってくれてとてもうれしかったです。そのあと、プールパーティで着ていた浴衣をホストファミリーに着せてあげると、とても喜んで、撮影会が始まりました。浴衣はそのままプレゼントしました。喜んでくれると私も嬉しくて、とてもいい思い出になりました。</p>
<p>そして、もう1つの自分から積極的にコミュニケーションをとり、1つでも多くのことを吸収するという目標では、最初は自分の英語がきちんと伝わるかどうか不安だったけど、話してみると、相手も聞いてくれようとして、簡単な英語でもきちんと会話ができ、コミュニケーションをとることができました。言葉で伝えるのが難しかったときは、身振り手振りで何とか伝えようと頑張ったら、大体のことは伝わったので、私は、「伝わる」ということが嬉しくて、意識しなくても自然と自分から話しかける回数が増えていました。日常会話が普段の言葉と違うことにもっと苦戦すると思っていたけど、自分が思っていたより楽しく会話することができて、もっともっと話したいと思いました。</p>

また、アメリカには私の知らないことやものばかりあると思っていた
ので、その知らないことを少しでも多く知って、自分の考え方などに
活かせるようにしたいと思っていました。その中でも私は、アメリカ人の
初対面でもフレンドリーなところがいいなと思いました。日本人では
あまりないことだし、私は人見知りしてしまう方なので、アメリカ人の
ようなフレンドリーさがほしいなと思っていました。アメリカでは、私も
現地の人のように初対面の人にたくさん話しかけてみました。案外、日本
よりアメリカの方が自分から積極的に知らない人に話しかけられた気が
します。もう1つ、人の温かさに改めて気づきました。特に驚いたのは、
くしゃみをしたときに「お大事に」と言ってくれたことです。日本では
日本ではあまり言う習慣がないので、温かい人たちだなと思いました。
それと同時に、日本人の温かさも感じられました。
これらの他にもまだまだたくさんのことを学び、経験し、感じることも
できました。今回の研修は最初から最後まですべてのことが私にとって
初めてのことで、分からないことや不安な事ばかりだったけど、
周りの人の支えや協力があったからこそ、この研修がとても充実したもの
になったと思います。不安な気持ちが吹っ飛ぶくらいのもっと楽しい研修
だったので、1週間がとても短く感じました。これをきっかけに、もっと
もっとアメリカのことや他の国について知ってみたり、触れてみたい
したいなと思いました。この貴重な経験を活かして、今後、もっと英語の
勉強をして異国の文化を学びたいと思っています。そのためにも、
いろいろな国に行ってみたいなとも思います。
また、私が学んだことをたくさんの人に伝えられるような人になりたい
です。この研修で、私の将来に対する考え方が変わった気がします。
今回の米国派遣研修が私にとって無駄なものにならないよう、人と
してもきちんと成長できる人になりたいです。
この研修は、私の人生を変える出来事になったと思います。

米国研修体験記

タイトル 広くて大きいアメリカで

(下関市立勝山)中学校 氏名(安田 薫)

令和元年7月31日、私はアメリカに初上陸を果たしました。ずっと憧れていたアメリカに着陸したときは興奮で胸の高鳴りが止まりませんでした。

サンフランシスコ空港に着いたとき、私は飛行機の中で腹痛に悩まされていたこともあって一睡もできなかったのだとにかくぐったりしていました。初めて見たアメリカはとにかく何もかも大きくてびっくりしたことを覚えています。そしてとても良いにおいを含まれていてなんともいえぬふわふわした気分でした。アメリカに着いてからすぐ憧れのサンフランシスコバスで走りまわりました。そのあとめったに入れないであろうサンフランシスコ日本領事館に行き青野さんという方にゴールドラッシュや、アメリカの政治について教えてもらいました。青野さんはそのとき「サンフランシスコにはいろいろな人種の人がいる。」とあっさっといはしたが、メキシカンやアイリッシュ、ユダヤ系、日系人、アラブ系やアフリカ系、本当にたくさんの種族の人たちが集まっていて、でもみんな仲良く驚きました。

青野さんのお話をうかからたあと「ピア39」というショッピングエリアに行きグラムチャウダーを食べました。おいしかったのですが、すごく大きくてパンの中にスープが入っていて日本では見たことがありませんでした。アメリカでシーフードを食べたのはここが最初で最後で、下関は本当に魚が美味いところだったんだなと妙にしみじみしていました。

その後、初めてホストファミリーに対面しました。私がお世話になったテリー家はホストファザーのジェームスと9歳の長女のメディスンと5歳のジエイコブが迎えに来てくれました。メディスンは初めはどこかそっけなくツンケンしているところがあったのですが、ハリポッターという共通の趣味やプール、トランポリン、ハイキングを通してとても仲良くなりました。5歳の末子ジエイコブはどこか反抗していてみんなから「クレージーボーイ」と呼ばれていましたがとても可愛い子でした。

そして家でお留守番していた真ん中の女の子リーガンを女の子なのに私はずっと男の子かと思って初めて姿を見たときはびっくりしました。そのときの私の頭の中は完全に彼女のおみやげとして持ってきたウルトラマン人形の代わりに何かで一杯でした。なんとお姉ちゃんのおみやげ用に持ってきたキティちゃんの人形を

をあげたら喜んでくれたのどともほっといとお覚えています。レーガン、彼女はとも
おしゃまな子で、私は兄弟でこのレーガンに一番性格が近い気がします。3人とも
とても可愛くて末っ子の私は5日間ですが3人の弟と妹ができたようで嬉しかったです。

ホストファミリーとホストマザーはとも優しくて常にラブラブなカブアでした。

まるで映画から飛び出したようなすまじな家族で彼らは私に、とても
楽しい系経験をたくさんさせてくれました。私は彼らが大好きです。また
いつかきっと彼らに会いに行こうと思います。

在米中には中学校と高校も訪問しました。そこはたくさん生徒さんが
私たちに日本人を歓迎してくれました。みんな種族も年齢も違いました。

でもみんなとも仲良しで楽しそうで見えてほっとしました。同時にアメリカ
は自由でファンキーでいいなあとも思っていました。

中学校では折り紙のつくり方を教えて一緒に作りました。そこで私は
一歳年下の2人の女の子と仲良くなりましたがあまり時間がなくて
連絡先も交換できなかったのが残念でした。

またピッツバーグの生徒さんたちとサクラメントにも行きました。そこで
ルーシーという大学生とナンシーという高校生と仲良くなりました。一緒に
ピザを食べてフリータイムには一緒に買い物に行きました。そこは私は7マの
人形を買いました。私は7マのぬいぐるみに目が無いので今も部屋に
飾ってときとき眺めてはうっとりしています。

私は今日の石井修で個性を認め合うことの大切さを学びました。日本では
協調性を大切にと言われてますが、アメリカは服装や行動が自由な
代わりに互いの個性を認め合うことが大事とされているように思
います。だからみんなとも優しくていつも笑って暮らすことができているんたら
なと感じました。そんなアメリカの関係は日本人の私から見てもすごく
良いなと思えました。そんな関係が築けたらどんなに毎日が楽しいと思います。

今日の石井修は日本を支えてくれた両親、先生、企画運営の方々、一緒に
海を渡った友人たち、そしてアメリカで温かく迎えてくれたホストファミリー、学校
の先生、生徒さん、サポーターさんの存在がなければきっと成り立ちませんでした。

そのすべてのみなさんに感謝したいと思います。アメリカは広くて大きすぎて
いいところでした。どうもありがとうございました。

米国研修体験記

タイトル

米国研修を通して

(下関市立 勝山) 中学校 氏名 (好本 風河)

私は、今回の米国派遣研修でのホームステイや学校交流などを通して、言葉が通い
なくても伝えようとする気持ちが大切だと分かりました。最初は緊張して、自分から話す
ことがあまりできず、ホストファミリーに聞かれたことを Yes か No で答えてばかりいまし
ただけで、1日目の夜にはもう緊張もほぐれり、知っている英単語やジェスチャーなどを
使って、少しづつ自分から話せるようになっていきました。一緒にゲームなどをして遊んだり、
色んな場所に連れて行ってもらうことで最後にはホストファミリーととても仲良くなることか
できました。お別れするのが本当に悲しかったです。学校交流でも、一緒につるを折る
たり、写真を撮ったりして楽しく過ごすことができました。SNSのアカウントも交換して
今でも連絡を取り合っています。このような経験から、言葉が通いなくても伝えよう
とする気持ちを持つ、できれば「言葉の壁を乗り越えることができるのだ」と思いました。
また、笑顔、はとて大切だと思いました。現地のトはみんな笑顔で私たちに話
しかけてくれました。そのおかげでとても話しやすかったし、自分も笑顔になりました。
やはり、笑顔というのはどの国にいても、人と人とを繋げてくれる、素敵なものだと思
いました。これから、日本でも今まで以上に笑顔を大切に、毎日笑って過ごし
たいです。

また、今回の研修では自分の中での目標がありました。それは、「英語力」と「コミュニ
ケーション能力」を上げることです。私は将来、世界で活躍できる人になることが
夢です。そのためにはこの2つの能力は必要不可欠です。1週間という短い期間で
したけれど、たくさん交流をすることができ、少しは2つの能力を上げることができた力
ではいいかと思います。この2つの能力は、これから生きていく上で自分にとって大
きな取り柄になると思います。自分の将来にいかしていきよう、努力し続けたい
です。

それから今回、ピッツバーグで下関や日本の良さや現地のトにたくさん伝えられたと
思います。6日の第一回研修会から、一緒にピッツバーグに行った8人でたくさん話
し合えて、英語での下関のアピールを作りました。それをピッツバーグの市役所と
学校で発表しました。クイズなどもあり、楽しんで聞いてくださいました。祭りや建築
物など、下関の良さがたくさん伝わったのではいいかと思います。また、ホームステイ

中心、ホストファミリーに日本からの「おもてなし」をしました。まず、日本食を作りました。一緒にホームステイをした2人と、みそ汁、そうめん、かにぎりを作りました。箸を使うのに苦戦していたけれど、どれもおいしいと言ってくれました。次に、浴衣をプレゼントしました。私たちがポルピロで着た浴衣をホストファミリーに着せてあげました。ホストファミリーにも甚平を着てもらって、みんなで写真を撮りました。みんなとても似合っていて綺麗でした。他にも日本から髪飾りやお菓子などをたくさんお土産を持っていきました。どれもとても喜んでくれて嬉しかったです。私も大好きな日本の文化をホストファミリーなど、たくさんの人に伝えることができて良かったです。

私は、アメリカに行って驚いたことがあります。それは、アメリカには日本好きの人がたくさんいるということです。ホストファミリーの1人は日本に住んでいたことがあるらしく、とても日本好きの人でした。簡単な日本語を少し話してくれました。また、おばあちゃんの家に行ったとき、日本の着物や漢字などがたくさん飾ってありました。猫の名前まで日本の名前にしていました。それから、「JAPANESE FESTIVAL」という祭りがあるということもホストファミリーから教えてもらいました。写真を見せてもらうと、天ぷらやかき氷、寿司、盆裁などがありました。このように、アメリカには日本好きの人がたくさんいることが分かりました。学校交流で出会った学生にも、日本が好きだと言ってくれる人がいました。少し驚きましたが、とても嬉しかったです。

そして、日本以外の国に行くことで日本の良さを再発見することができました。日本には、優しい人が多い、水や自然が綺麗だったり、美味しいものがたくさんあったりと、良いところがたくさんあります。今まで以上に自分の母国を大切にしていきたいと思うようになりました。自分の国の良いところを誇れる、良い機会になりました。

今回の研修では、たくさん良い思い出ができました。その中でもホストファミリーには色々な経験をさせてもらいました。とても感謝しています。ホストファミリーと過ごした時間は一生の宝物です。

最後に、この研修はたくさんの方の助けがなければできませんでした。一番近くで支えてくれた家族を始め、学校の先生、下関市や国際ボランティアのみなさんなど、この研修をさせてくださった全ての人に感謝しています。この経験をいかして、これから頑張ります。